



Komatsu高校 学校通信

令和2年

12月

『ボーっと生きてんじゃねーよ！』

生徒課 川口 靖史

『チョコちゃんに叱られる！』は、「なぜおにぎりには三角なのか？」「どうして優勝したときなどに胴上げをするのか」など、日常にある素朴かつ当たり前すぎてかえって答えられない疑問について考えるバラエティー番組で、NHKで毎週金曜日の夜に放送されている。クイズ形式で行われ、解答者が答えに詰まると5歳児（という設定）のチョコちゃんに題のセリフで叱られてしまうという構成で進められる。先日、この番組の中で「なんで数学を勉強するの？」というものが紹介された。一緒に観ていた妻（配偶者の呼び方は奥さん、嫁さん、家内などいろいろあるが、チョコちゃんによると妻のみが正しい呼び方らしい）が私に答えを先んじて聞いてきたが、なんとか正解することができてほっとした（答えは「論理的な思考力が身に付くから」である）。

当たり前すぎて理由が分からない、というものは、考えてみれば世の中には数多く存在する。身だしなみを始めとする学校の校則もその一つではないかと思う。「ツーブロックはなぜ校則違反なのか」「ピアスを開けてはいけない理由は」「校内で保護者との連絡の時にさえもスマホを使用してはいけないのはなぜなのか」。指導をしていて、実際に生徒から発せられた言葉である。もちろんルールはルールであるから、違反した以上は納得ができなくても指導は行う。しかし、納得できないからつい違反してしまうという生徒諸君の気持ちも分からなくはない。数は多くないと思うが、休み時間にスマホを使用するのが許可されている高校もあるだろう。ではなぜ（小松高校では）校内でのスマホ使用が禁止されているのか。私が8年前に小松高校に赴任してきたときにはすでに存在していたルールなので、一緒に考えてみたい。



ここで気をつけてほしいことは、「お互いの視点」で考えることだ。生徒諸君の目線から考えると、重要な連絡や送迎の時間の連絡などのために公衆電話を使ったり、わざわざ校外に出てからスマホを使うのは煩わしいことであろう。個人的な感情としては、使用を認めてもいいとさえ思う。しかし、先生側の目線から考えるとどうだろう。目の前の生徒がスマホを操作している。ゲームをしているか、保護者に連絡をしているのか分からない。確認しようにもスマホはすぐに画面を切り替えられるし、「見た」以外の証拠はない。生徒と教員お互いに確証がない以上、不毛な水掛け論が展開されることも少なくないだろう。「保護者に連絡をする」という、している行為は正しくても、それを正確に把握し、指導する手段がないのである。そうである以上は、指導できるところにラインを引かざるを得ない。面倒でも、保護者に連絡すること自体はできるのだから。逆に言えば、最新のテクノロジーや発想を駆使して、「時間や費用をかけず正確に」ゲームをしていたか、保護者に連絡していたかが分かる手段があるなら、私はこのルールを撤廃してよいと思う。

いろいろな視点から、当たり前とされているルールを眺めてみると、実は納得できるものもあるだろう。逆に、どう考えても納得できないものもあるかもしれない。そのような場合は正しい手順を踏めばルールの変更を提案することもできる（小松高校でなら、生徒会会則を読んでもみることをおすすめする）。大切なのは、自分できちんと考えてみることだ。ルールだから何も考えず守る、ではなく、なぜそのルールがあるのかを考える。考えることをしない人間の言葉は他人の心には届かないことを頭の片隅に置いておいてほしい。『ボーっと生きる』ことがないように。



令和 2 年度 12 月行事予定

日	曜	行	事
1	火		期末考査
2	水		
3	木		
4	金	↓	コート販売（1年） 第4回PTA常任委員会（→書面開催に変更）
5	土		土曜課外⑥
6	日		
7	月		語の日 校納金引落
8	火		クラスマッチ（3年） ①～③限授業（1・2年）
9	水		クラスマッチ（2年） ①～③限授業（1・3年）
10	木		クラスマッチ（1年） ①～③限授業（2・3年）
11	金		
12	土		土曜課外⑦（全学年） 食物検定2級
13	日		
14	月		
15	火		火①～⑤限授業
16	水	↑	水④～⑥限の授業 保護者懇談会
17	木		木①～③限の授業
18	金	↓	表彰伝達 終業式
19	土	↑	大学入学共通テストファイナル（3年）
20	日	↓	第65回全商英語検定試験 被服検定1級
21	月	↑	冬季セミナー
22	火		
23	水		
24	木		
25	金	↓	
26	土		
27	日		
28	月		
29	火		
30	水		
31	木		

<編集後記 この時期だからこそ>

1日の生活の始まりに「おはよう」。食事をするとき「いただきます」。地域の人にも「こんにちは」。コトバー一つとっても、高校生の立場で、一人の若者として、身の回りの人たちにできることはいろいろとあるのではないのでしょうか。自分さえよければよいという振る舞いやコトバ遣いをしていても、周りの人は誰も喜びません。家族に対しても友人や地域の人に対しても、できるなら、なるべく明るい気持ちにさせてあげられる、“優しく頼もしい”存在になれるように、生徒たちに考えさせていきたいと思います。